

作・演出／しゃくなげ謙治郎

若劇

8/4(金) 7:00 「爆劇戦線 和田謙二 Vol.7 アイドラトライアングル」
 5(土) 3:00 出演／爆劇戦線 和田謙二
 7:00
 6(日) 11:00 料金／一般前売 2,300円 一般当日 2,500円
 3:00 学生前売 1,800円 学生当日 2,000円
 大阪府外にお住まいの方は各券種から 300円引き (要証明)

ウイングカップ8特別企画 with 花まる学習会王子小劇場

8(火) 「ディレクターズワークショップ」
 11(金祝) ファシリテータ／広田淳一 (アマヤドリ)
 ※参加・見学に関しての詳細はウイングフィールドホームページをご確認ください。

ウイングカップ8特別企画

13(日) 7:00 「音響ワークショップ」 講師／あなみふみ (ウイングフィールド)

14(月) 7:00 ウイングカップ8特別企画
 15(火) 7:00 「舞台監督ワークショップ」 講師／谷本誠 (CQ) 料金／各回 1,000円

ウイングカップ8特別企画

16(水) 7:00 「照明ワークショップ」 講師／溝渕功 (Quantum Leap*)

ウイングフィールド提携公演 第9回むりやり堺筋線演劇祭
作・演出・作曲／ヤストミフルタ

旅劇

19(土) 7:00★ 「幸せの標本 完全版」
 20(日) 11:00★ 出演／ノックノックス
 15:00 ★終演後アフタートークあり
 料金／一般前売 3,000円 一般当日 3,300円
 学生 1,500円 (要証明) 小学生以下無料

25(金) 2:00 作・演出／ひみつのみつき
 7:00 「もう独りのSOS」
 26(土) 1:00 出演／Artist's あっとアート。
 6:00
 27(日) 1:00 料金／一般前売：2,500円 一般当日 3,000円
 5:00 その他各種割引あり

若劇

28(月) 7:00 異・同分野交流サロン 「月曜倶楽部」
 ウイングカップ8 前夜祭 料金／500円

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイングフィールド

〒542-0083 大阪府中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL (06) 6211-8427 FAX (06) 6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://www.wing-f.co.jp>

演劇の社会的役割について

大石 時雄

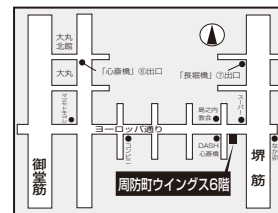
恩師・中島陸郎が他界してから十八年が経った。

彼が最後に愛した小劇場、ウイングフィールドで四月、「現代演劇は衰弱に向かっているのか?」と題するシンポジウムが2週連続で開催された。ぼくは、その1週目に、登壇した。

現代演劇は衰弱に向かっているのか? 正直、ぼくには分からない。日本の総人口が減少に転じたこと、少子化がますます進むことから想像すれば、現代演劇を創る人も観る人も減っていくだろう。だけど、人数の多寡で「衰弱している」と断定することはできない。それに、大阪にはウイングフィールドが在る。

シンポジウムでぼくがいちばん伝えたかったことは、次のようなことである。一九八〇年代以降の日本の現代演劇シーンでは、娯楽としての演劇ばかりが求められてきたのではないかと、メディアとしての役割をないがしろにしてきたのではないかと。単純に「娯楽」の視点を批判しているのではない。「メディア」という概念に注目して、現代演劇の「社会的有用性」を捉え返してみようか。そう思うのだ。

メディアの特徴に「伝達性」と「批判性」があるが、今の日本社会には「批判性」を求めたい。何を批判するか。もちろん、国家権力を批判する。



現代演劇という文化のメディアが、権力に批判的な精神を持ち続けなければ、世の中は退廃していく。ぼくたちは「暗い社会」で生きることになる。この2、3年のあいだに

起きているこの国の政治や行政を眺めてみれば、ぼくの真意は理解していただけるだろう。このまま何もしなければ、ぼくたちの多くは、ハンナ・アレント (ドイツ出身の政治哲学者) の著書「暗い時代の人々」となるのではないかと。そのようにぼくは危惧している。

政治と行政の劣化によって全体主義的な社会になりつつある日本において、世の多数者となった人々の、わかり易くて大きな声に、「ちょっと待った」を掛けなければならない。それができるのは、現代演劇ではないのか。現代演劇が持つ「フィクションの強み」を生かし、言葉の力を発揮し、この国の権力を批判する。そのことを通して、大きな時代の流れに「待った」の声を上げ、世論の場の空気を少しずつ違ったものに変えていく。ぼくたちの現代演劇を小劇場で観てもらうことで、そんな批判的思考を持った、そんな生活習慣を備えた人間を、毎日少しずつ世の中に送り出していく。社会の中に適当に散らばしておくことは、健全な社会を維持していくために重要なことである。

そして、そのことは、小劇場という小さな空間で生まれる現代演劇が持つ「社会的有用性」を証明すると同時に、大阪の演劇人たちにとってウイングフィールドが、「頼るものがない時代のただなかで、拠って立つべき表現の足場」となるのではないだろうか。現代演劇だけでなく劇場もまた、「国民と国家 (権力) の中間にあって作用する」メディアなのだから。

ぼくたち演劇人は少数派かもしれない。けれども、大いなる少数派になればいいのではないかと。現代演劇は、「衰弱」に向かっている場合ではない。

(いわき芸術文化交流館 支配人)